



第九卷第三號

春の野遊

豊子

谷の水のとけそめて

岸に若菜も崩え初めぬ。

籠の梢青葉して

世はいつしかに春立ぬ。

學の園に集ふ子よ

風暖かに空晴れて

墓を尋ね蝶を追ひ

春の野山は稚な子に

花も蝶々も稚な子に

たとしへもなき樂園に

心のかぎり遊べかし

小川の流いと清く

緑の綾はいと深く

教の庭に行く稚子よ

百鳥歌ふ野に山に

楽しく過せ今日の日を

神の賜ひし樂園ぞ

神の賜ひし友垣よ

可愛ゆき友と打つれて

心の限り唱へかし。